

デジタルアーカイブを楽しむ ～地域文化資源の記録「旧盆行事編」～

加治工 尚子（岐阜女子大学）

1. はじめに —多面的な記録の試み—

今回は、岐阜女子大学が保有するデジタル資料の中から「沖縄県内の旧盆行事」に関するものをピックアップして眺めてみたい。勇壮に飛び跳ねて踊る「エイサー」は全国的に知られるようになったが、元は旧盆行事の一つである。エイサーが盛んな地域としては、沖縄本島の中中部が有名だが、今では離島を含む多くの地域において運動会や余興などでみられるようになってきた。

本学では、沖縄本島のエイサー大会や旧盆の時期に行われる諸行事等の取材を重ね、教材化を試みている。教材作成に至った経緯にはいくつかの要因があるが、中でもエイサーに対する世代間のギャップに注目し、多面的な記録を心掛けてきた。学芸会や運動会をとおしてエイサーに触れてきた若い世代の間では、エイサーがお盆の行事であるという認識が希薄である。本学に通う保育士や教員を目指す学生たちへのアンケート調査でもそのことが確認できた。長寿を祝福する生年祝いの余興において、孫たちがエイサーを披露し、祖父母を悲しませてしまったというエピソードをよく耳にする。年配者が不快に感じたのは、元来、エイサーはお盆に集まった先祖の霊や精霊たちをあのに送り返す行為であるという感覚があるからである。エイサーに使用する楽曲は地域によって様々だが、曲によっては「南無阿彌陀仏」などの念仏が歌詞に含まれているものもある。しかし、若者らが経験するエイサーでは、民謡やアニメ主題歌などテンポ感のあるものやアレンジされた曲を使ったり、あるいは、念仏歌を使用しているにもかかわらず方言の歌詞の意味を理解しないまま、踊りや隊列を揃えることを中心に教えられたりしていることが多いようである。

本学では、この世代間や地域間における認識のずれを解消すべく、旧盆行事の多面的な記録を基にしたデジタルコンテンツづくりを進めてきた。これらのアーカイブ活動の一端を紹介したい。

2. デジタルアーカイブ実践事例 —撮影・収録—

これまでの記録資料を大別するとおおよそ表1のように分類できる。特徴として、エイサーの祖とされる「袋中上人」関連の資料があげられる。エイサーの起源は、1603年から3年間琉球に滞在した陸奥国磐城郡出身の浄土宗の僧「袋中」が浄土念仏とともに伝えた念仏踊りにあると考えられている。本学では、エイサーの盆行事としての側面に着目し、その関連性を示す資料として「じゃんがら念仏踊り（福島県いわき市）」や「アングマ（沖縄県石垣市）」などを取材した。資料参照

